

肺がん手術療法施行症例におけるPatient-reported quality of life (PR-QOL)、抑鬱気分および心理的適応を評価

- これまでの疫学研究では、罹患率、合併症発症率、死亡率などのいわゆる客観的なアウトカム指標が、その普遍性、定義の明確さ、個人・社会にとっての重大性などの理由から、盛んに活用されてきた。
- 近年、住民および患者の主観的な評価指標を重要性が明確に認識されるようになってきた。
- がん患者の自己申告によるQuality Of Life (QOL)評価法としてPatient-Reported Outcome (PRO)が注目されている。
- 最近、肺がんに対する第III相大規模臨床試験においてもPRO評価がsecondary endpointの1つに設定されており、海外においてはがん化学療法の有効性をはかる評価項目として、PROの重要性が認識されている。
- 手術を行う肺がん患者の術前、術後のQOLを測定し、手術を行った患者のoutcomeとする研究が始まっている。QOL状態を患者自らの情報をもとに多面的に把握し、適切な治療法選択を行うことが求められている。
- PRO-QOLを評価するツールとして
 - EORTC QLQ-C30 (European Organization for Research and Treatment of Cancer-Quality of Life Questionnaire-Core 30)
 - EORTC QLQ-LC13 (European Organization for Research and Treatment of Cancer-Quality of Life Questionnaire-Lung Cancer 13)を用いた。
- さらに、PRO-QOL、抑うつ状態や不安、心理的適応などの因子が、治療を受ける様々な癌患者(肺癌、乳癌)のoutcomeに影響するか、を研究し、QOLを改善するために、どこでどのように介入すべきか、を研究する。

EORTC QLQ-C30の質問票の一部



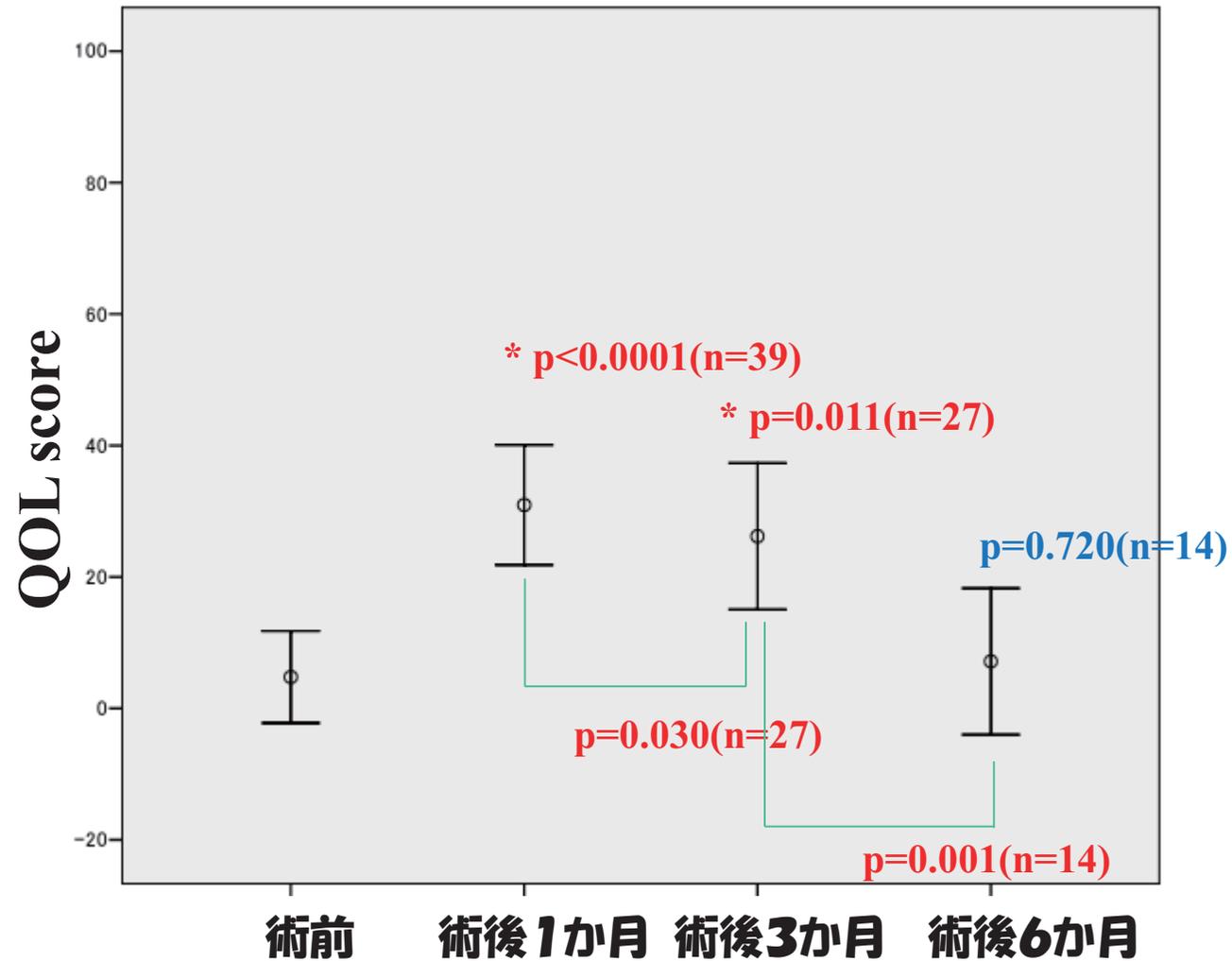
質問表 EORTC QLQ-C30 (version 3)

私達は、あなたとあなたの健康状態について関心を持っています。あなたの状態に、もっともよく当てはまる番号一つを○で囲み、全設問にお答え下さい。「正しい」答えや「誤った」答え、といったものではありません。なお、お答え頂いた内容については秘密厳守とさせていただきます。

あなたの名前の頭文字を書いて下さい。 姓: ___ 名: ___ (例: 山田花子さん。姓: や 名: は)
あなたの生年月日を書いて下さい。 19 ___ 年(明・大・昭・平 ___ 年) ___ 月 ___ 日生
今日の日付を書いて下さい。 20 ___ 年(平成 ___ 年) ___ 月 ___ 日

	まったく ない	少し ある	多い ___	とても 多い
1. 重い買い物袋やスーツケースを運ぶなどの力仕事に支障がありますか。	1	2	3	4
2. 長い距離を歩くことに支障がありますか。	1	2	3	4
3. 屋外の短い距離を歩くことに支障がありますか。	1	2	3	4
4. 一日中ベッドやイスで過ごさなければなりませんか。	1	2	3	4
5. 食べること、衣類を着ること、顔や体を洗うこと、トイレに行くことに人の手を借りる必要がありますか。	1	2	3	4

呼吸困難(Dyspnoea)



Dyspneaは術後1か月では有意に上昇し、術後3か月に低下するが、6か月経過し、術前値に回復した。

結果

- EORTC QLQ-C30

- **健康一般・総合QOLスケール**は術前と比較して、術後1か月目は有意に低下するが($p=0.0004$)、術後3か月以降は術前の値に回復する。
- **機能スケール(Functional scales)**において、**身体的機能**、**役割的功能**は、術後1か月目は有意に低下し、術後3か月以降は回復する。
- **症状スケール**においては、**疲労**、**食欲不振**、**疼痛**は、術後1か月目は有意に上昇するが、術後3か月で術前の値に回復する。**呼吸困難**は、術後3か月でも有意に上昇し、術後6か月で術前の値に回復する。呼吸困難は時間が経過するにしたがって軽快する。

- LC-13

- **呼吸困難**、**胸痛**、**咳嗽**は、術後1か月目と術後3か月は有意に上昇するが、術後6か月で術前の値に回復する。

- HADS

- **不安感**と**抑うつ感**は、術前に最も高く、術後時間が経過するとともに、軽快するが、抑うつ感に関しては、軽快するのに6か月程度必要である。